

親愛なる小野ゼミへ…

第8期生 鈴木 もも

とうとうこの時がやってきた。卒業にあたり、2年間のゼミ生活を振り返ってこうして卒業エッセイを書くように求められている訳だが、正直、今の私は過去を振り返っている暇がない程に、今日の事を考えてるし、明日の事を考えてる。それぐらい今、新しい繋がりや自分の世界がどんどん広がっている真っ只中にいるのである。もちろん、小野ゼミでの2年間の思い出は大切なものばかりだし、小野ゼミでの2年間の有ったから今があることもわかっている。でも、今は過去のことはとりあえず置いて、まっさらの未来を、最初から創っていきたい、そんな気分である。

まあ、ここまで読んで「もしかしてこの人は振り返って特筆すべき小野ゼミでの思い出がないのではないか。」と勘違いした人もいるかもしれない。普段の付き合いの悪さからも、ちょくちょく私が小野ゼミ嫌いであると勘違いしている人もいるみたいだが、決してそんなことはないことをこの場を借りて断言しておこう。何と言っても、ゼミは大学入学前からの楽しみの1つであったのだから。

大学に入学するにあたり、私には1つの目標があった。それは大学卒業時に胸を張って『私が大学で取り組んだ研究は～です。』と言える4年間を過ごすということだ。だからこそ、専門的な研究に取り組めるゼミ活動を私は心から楽しみにしていたし、この目標を達成できるゼミに入ろうと決めていた。そんな私にとって、指導熱心な小野先生や真剣に研究に取り組む仲間がいる小野ゼミは願ってもない環境であった。

尋常じゃないタスク量。中途半端なものを出そうものなら、容赦なくボコボコに潰す先輩。全てのアウトプットに対して求められる異常なまでの完璧さ。まさに小野ゼミは究極のエグゼミだった。確かに、熱心に研究に取り組みたいという想いを抱いていたが、これほどまでのゼミ生活を私は求めていたのか。自分の生活全てを犠牲にしなければならない状況に悩んだことも多々あった。しかし、小野ゼミに入り、こうして最後までゼミ生活を全うするという私の選択は間違っていなかったと思う。自らの全てを注いで真剣に取り組む、仲間とぶつかり合っただけで本当の学びは得られないのではないか。小学校から今まで16年間、色々なことを学んできたが、小野ゼミでの2年間は私に真に「学ぶ」とはどういうことかを教えてくれた。そして、小野ゼミでのエグい2年間は、私に、マーケティング研究に関して他の学生に負けない自信と、何より小野ゼミ生として負けれないプライドを与えてくれた。小野先生や先輩方からすれば、私なんてまだまだであろうが、小野ゼミで2年間マーケティングを学んだことは私の誇りである。この想いを忘れることなく、社会に出てからも日々学び、マーケティングのプロとして活躍したいと思う。

最後に、今の自分に聞きたい。あなたの大学での専攻研究はなんですか？

「私が大学で取り組んだ研究はマーケティング研究です。」